

令和3年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制総合学科、単位制の利点を活かし、基礎学力の定着や学習意欲の向上を図る教育課程を提供する。 ・多様な生徒の学習ニーズに応える柔軟な学習支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の実情に合わせた履修指導、単位修得指導を引き続き推進する。 ②生徒ができるようになったことを実感し、自ら学ぶことができるよう引き続き支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の実情に合わせたきめ細かな履修指導を行い、年度途中で履修を諦める生徒の減少を図る。 ②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた組織的な授業改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ①成績不振者となった生徒が減少したか。 ②校内授業研究が2回以上できたか。また、その中でICTを効果的に利用できたか。 ③生徒による授業評価の「授業の在り方」について肯定意見が8割を超えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①年度末成績会議において、成績不振者の人数は、3名減少した。未修得者は0名だった。 ②ICTを利用した研究授業を、3回実施した。 ③第2回生徒による授業評価では、「授業の在り方」の肯定意見は、86%だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①個々の生徒の実情に合わせたきめ細かな履修指導を引き続き行う。 ②ICTの効果的な利用に向け、さらに授業研究を進める。 ③生徒の実情に沿った授業作りを引き続き行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒に合わせたきめ細かな履修指導は、教員側の負担が大きいと思うが、引き続き取り組まれることを期待する。 ・履修指導の効果は出ていると思う。 ・ICT利用授業が3回行われたとのことだが、機材などの物理的条件なのか。 ・コロナの厳しい環境の中で、成績不審者を減少させることができたのは、先生方の大変な努力があったろうと推測する。その熱意が、授業の在り方に対する86%の肯定意見に表れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①成績不振者を減少させることができた。 ②校内研究授業は3回実施し、ICTを活用できた。 ③生徒による授業評価では、概ね良好な評価を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①引き続き、きめ細かな履修指導を行い、成績不振者となる生徒の減少をめざす。 ②今後も、「主体的・対話的で深い学び」につながるような校内授業研究を充実させるとともに、ICTの効果的な活用をさらに進める。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって安心、安全な教育環境の確保に努め、生徒の自己実現に向けたきめ細やかな支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒一人ひとりに寄り添い、課題を発見し、理解を深め、一人ひとりに合った支援・指導を行う。 ②生徒の自己肯定感の伸長、進路実現に向け、社会で通用する価値観の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒一人ひとりの課題を把握するため、情報共有のための資料を活用し、保護者と連携しながら生徒への理解を深める。 ②問題行動等を未然に防ぎ、生活習慣上の課題を解決するための支援・指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①情報共有が的確に行われており、必要に応じて保護者と連携しながら課題解決に向けた取り組みを行っているか。 ②問題行動等を未然に防ぎ、指導件数を減らすことができたか。 ③社会で通用する価値観が身についているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①コロナ禍ではあるが、電話連絡、面談を活用しながら、特に進学・就職予定者を中心に保護者と連携し、課題解決に取り組むことができた。 ②問題行動が起こらないよう、事前指導に力点を置き、指導は0件であった。 ③講習を定期的実施し、社会で通用する価値観が身につくよう指導している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①新型コロナウイルス感染再拡大が起きているが、状況に応じつつ、面談等の実施を継続し、課題とその解決に引き続き取り組みたい。 ②今後も問題行動が起こらないように適切な指導、支援を続けていく。 ③各種講習会を今後も継続して行い、社会で通用する人材育成を一層充実させていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と連携して、引き続き生徒指導・支援することを期待する。 ・保護者との連携で課題解決に至った件数はどれくらいだったでしょうか。 ・問題行動指導0件は、先生方の日常的生徒指導のきめ細かさの成果と考ええる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携は必須であり、今後も継続していく所存である。次年度はコロナによる制限も緩和すると考えられ、今年度以上の緊密な連絡、面談の実施を行っていききたい。 ・保護者との連携で課題解決に至った件数は、考え方にもよるため難しいが、現状として完全に課題が解決した件数は2件、進路指導においては12件、継続して取り組む必要がある件数は4件である。 ・問題行動指導件数については、ご評価いただいたとおりと考えている。しかしながら、生徒のニーズの多様化、個々の課題を抱えている状況を鑑み、今後も指導件数0件を維持するためには、状況に応じて適切な支援、指導を継続していく必要があると考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制のさらなる充実、情報共有の強化のため、定例の教育相談会の実施を目指している。これにより、担当者個々での対応から、組織として柔軟かつ適切に対応できるような体制を整える。併せて進路指導との連携も行い、学校全体としての支援体制を強化していきたい。 ・問題行動指導件数は0件であったが、潜在的に全く起こり得ないということではない。そのため、日々の支援・指導を継続しながら、必要に応じて教育相談会等での情報共有により、さらなる支援・指導できる素地を築いていく。
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実情に沿ったキャリア教育を推進し、社会生活実践力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの実情に合わせた進路指導を行い、希望進路の実現を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の実情を把握し、そのニーズに合わせた進路指導を行う。 ・進路だよりを発行し、生徒、保護者及び担任と様々な進路情報を共有する。 ・特別な支援が必要な生徒の就労支援を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定率を80%以上にできたか。 ・進路だよりを月2回以上発行できたか。 ・福祉就労の継続や就労支援機関との連携が適切に行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2月末現在、進路決定率は、80%である。 ・進路だよりを30回（ほぼ週1回）発行した。 ・就労支援事業所と協力し、シームレスバディを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路未決定者への支援を引き続き行う。 ・発達の特徴に応じた支援のあり方について、継続的に検討していく。 ・早期離職を防ぐため、積極的に就業体験等への参加を呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の対応は難しいと思う。目標到達は素晴らしい。 ・進路決定率100%に向けてご努力のほど、お願いします。 ・80%の進路決定率は、10人中8人が、来年から何をすればよいか決まっていると考えると、高い率に感じられる。 ・早期離職に対する工業高校として提供できることは、やはり就業体験以外にはないだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かな進路指導の結果、進路決定率は86.7%であった。 ・進路だよりを30回発行し、生徒、保護者と進路情報を共有することができた。 ・就労支援事業所と協力することにより、新たな取組を有効に活用できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、生徒の状況を把握し個々に応じたきめ細かな進路指導に努め、進路決定率を維持できるように取組を進める ・就労支援機関等との連携を進め、特別な支援が必要な生徒の就労支援を進めていく。

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価(3月25日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
4	地域等との協働	<p>・学校外の機関と協働・連携や外部人材の活用により、地域の教育力を生かした学校づくりを進める。</p>	<p>①生徒の実情に沿った就労支援のため外部機関との協働を進める。 ②本校ホームページを活用し、教育活動を発信することにより、地域とともに育つ向工を実現する。</p>	<p>①ハローワーク、サポートステーション及びNPO団体との協働を図る。 ①地元工業会主催のオープンファクトリー等への参加を働きかける。 ②本校ホームページや後援会役員会などを活用し、保護者等へ学校行事等への参加を呼びかける。</p>	<p>①ハローワーク、サポートステーション及びNPO団体と協働できたか。 ①オープンファクトリー等を通して外部との連携ができたか。 ②保護者との連携の機会を設けられたか。 ②ホームページの更新を月に2回以上できたか。</p>	<p>①サポートステーションと協働での授業は実施できなかったが、川崎市労働局との協働による授業を実施した。 ①地元企業への就業体験を実施した。</p>	<p>①ハローワーク等との協働を、感染症対策を取りながらではあるが、できる形での連携を進めていく。 ①感染症対策の影響で体験活動の計画を組むことが非常に難しかった。</p>	<p>・コロナ禍であっても生徒のために努力している先生方に感謝する。 ・コロナは長期化すると思う。課題解決に向けた諸活動に影響すると思う。感染対策に留意して取り組んでください。</p>	<p>①川崎市労働局との協働による授業を実施することができた。 ①地元企業への就業体験を通し、連携を進めた。 ②コロナ禍であり、学校行事への保護者の参加は限られたが、ホームページ等を用いて本校の教育活動を情報発信することができた。</p>	<p>①今後も地元企業との連携を進めるとともに、公的機関との協働による取組を充実させていく。 ②今後も本校における教育活動をホームページに掲載し、情報発信に努める。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>・安全教育、環境教育を推進し、安心安全な教育環境を構築する。 ・全ての職員の資質向上を図るとともに、風通りの良い職場づくりをめざし、教職員の事故不祥事を未然に防止する。</p>	<p>①6S教育(※)を実践するとともに、ICTを効果的に用いながら、防災体制の一層の充実を図る。 ②職員の資質向上に向け、全職員が引き続き連携・協力して不祥事防止に取り組む。</p>	<p>①授業や特別活動の中で、状況に即した形で6S教育を実践する。 ①計画的に防災訓練を行い、生徒・職員の防災意識を高める。 ②定期的に不祥事防止等の研修を行う。</p>	<p>①安全・安心な学校づくりに資するため、実状に合わせた形で6S教育を実践できたか。 ①計画的に防災教育を実践し、生徒・職員の意識を高めることができたか。 ②全職員で不祥事ゼロを達成できたか。</p>	<p>①現状を把握しながら、本校の実態に応じて6S教育を実践できた。 ①垂直避難を実施し、生徒・職員の防災意識を高めることができた。 ②不祥事はゼロであった。</p>	<p>①感染症対策等の状況を適切に捉えながら、今後も6S教育を推進していく。 ①引き続き防災訓練を実施するとともに、備蓄品や防災用品の整備・管理を行う。 ②引き続き、全職員で不祥事ゼロを目指す。</p>	<p>地震のほか、多摩川沿岸に立地している都合上、水害といつ対峙するかわからない。避難訓練等は継続的に実施されることを期待する。 ・6Sの取組において、全日制と事情が異なり、苦勞されていると推測します。</p>	<p>①様々な教育活動を通して6S教育を実践できた。 ①DIGについては、コロナ禍の影響もあり、対面での実施はできなかったため、講義形式で行った。 ①避難訓練では、多摩川の氾濫を想定した垂直避難を行い、防災意識を高めることができた。 ②定期的に不祥事防止研修を行い、全職員で不祥事ゼロを実現できた。</p>	<p>①引き続き6S教育を実践し、生徒の安心・安全な学校教育を実現する。 ①防災訓練やDIGについては、状況を考慮して効果的な方法を検討し、定期的の実施する。 ②今後も全職員で不祥事ゼロを目指す。</p>

※6S教育・・・安全・環境教育の推進に資するため、6S「整理、整頓、清潔、清掃、躰、セイフティ(安全)」運動を展開する。